

3つの三角形

山縣 洋
YO YAMAGATA

□ 広大な三角形のポイド

津田沼駅南口駅前には35haの広大な三角形のポイドがあり、平成27年度の完成を目指して土地区画整理事業が進んでいる。この住宅の敷地はその区画の、駅とは反対側の一边に接してあり、今のところ駅前まで見通すことのできる広大な畑の眺望がある。運良く敷地が隣接する部分は近隣公園となり、前面道路は拡幅され、歩道には街路樹も植えられる予定である。いずれにしろ、環境は近い将来、大きく変化する。

□ 音と光の反射板

前面道路は比較的交通量が多く、その騒音が懸念された。したがって、東側に眺望が良いからといって、無条件に開いた構成をとることもできなかった。眺望を楽しむためには開きたいが、騒音を遮断するためには閉ざしたいという矛盾した条件があった。そこで、居室部分はな

るべく道路と反対側の敷地の西側に寄せて、道路境界に壁を立て、中庭をバッファゾーンとして交通騒音の減衰をねらった。この道路境界の壁は2つの機能を持つ。ひとつは交通騒音を反射する。もう一つは南からの光を反射し、室内に柔らかい光を導く。つまり、採り入れたい光と排除したい音の反射板として働く。

□ 3つの三角形の開口

三角形の敷地なりにポリウムを立ち上げ、北側斜線により北側を低くした片流れの屋根形状を決め、このポリウムのコーナー部分を斜めに切り落とすように、大きさの異なる3つの三角形の開口をつくっている。一番大きな三角形は東側に広がる眺望を楽しむために開けられた開口であり、隣接する都市的なスケールに呼応している。2つ目の中ぐらいの三角形は、北側のコーナーの下の部分を斜めに切り落として出来た開口で、人や車の建物に対する出入り口として機能する。3つ目の小さな三角形は、南西の上部のコーナーを斜めに切り落として出来たトップライトである。光を建物に採り入れるための開口となっている。

眺め、出入り、光という3つのものを取り入れるという建築の開口が持つ本質的な機能を、大中小の3つの三角形の開口が象徴しているともいえる。この3つの三角形の開口により、住宅という日常

的な要求に縛られた空間に異なる質を与えられないかと考えた。

□ 床材料の触感

内部空間は壁、天井は白を基調とし、床材のみ、その場所が要求する性能に応じて使い分けている。1階の玄関の土間スペースはタイル張りとし、寝室部分は柔らかいスギの無垢材、2階の水まわり、およびキッチン/リビングの床には木にも見えるような独特の質感を持ったタイル、床暖房の入っているリビング・ダイニング部分は薄く染色されたフローリングというように、機能と触感を重視して材料を選出した。*

やまがた・よう——建築家/1962年生まれ。1985年、東京工業大学建築学科卒業。1987年、同大学大学院修士課程修了。1987年、竹中工務店入社。1994～96年、OMA（オランダ）に勤務。2002年、山縣洋建築設計事務所設立。2004～07年、明治大学兼任講師。現在、都立城南職業訓練校・東海大学非常勤講師。
主な作品：UT（2004）、MY（2006）、YJ（2007）、YG（2008）など。

■ 建築概要

名称：TK
所在地：千葉県習志野市
家族構成：夫婦+子供1人
敷地面積：106.70㎡
建築面積：51.68㎡
延床面積：103.36㎡
規模：地上2階
構造：木造
工期：2007.11～2008.6
設計：山縣洋建築設計事務所
施工：大秀建設

● INAX使用商品 ● 床タイル：リスペンデ IPF-400/RP-23、便器：サティスほか

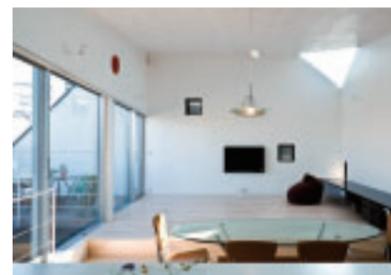
TK

設計：山縣洋建築設計事務所



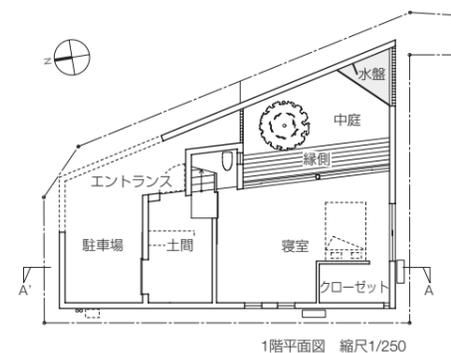
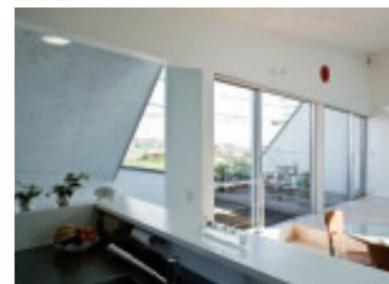
東面全景 道路側の壁が音と光の反射板として働く

下—2階トイレ 木のような質感をもつ床タイル
右—洗面室方向を見る 手前のガラス床は土間に光を落とすためのもの



キッチンからダイニング、リビング方向を見る。右上の三角形のトップライトからさまざまな光が落ちる

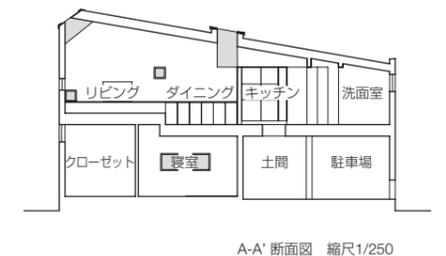
適度に囲まれたテラス



1階平面図 縮尺1/250



2階平面図



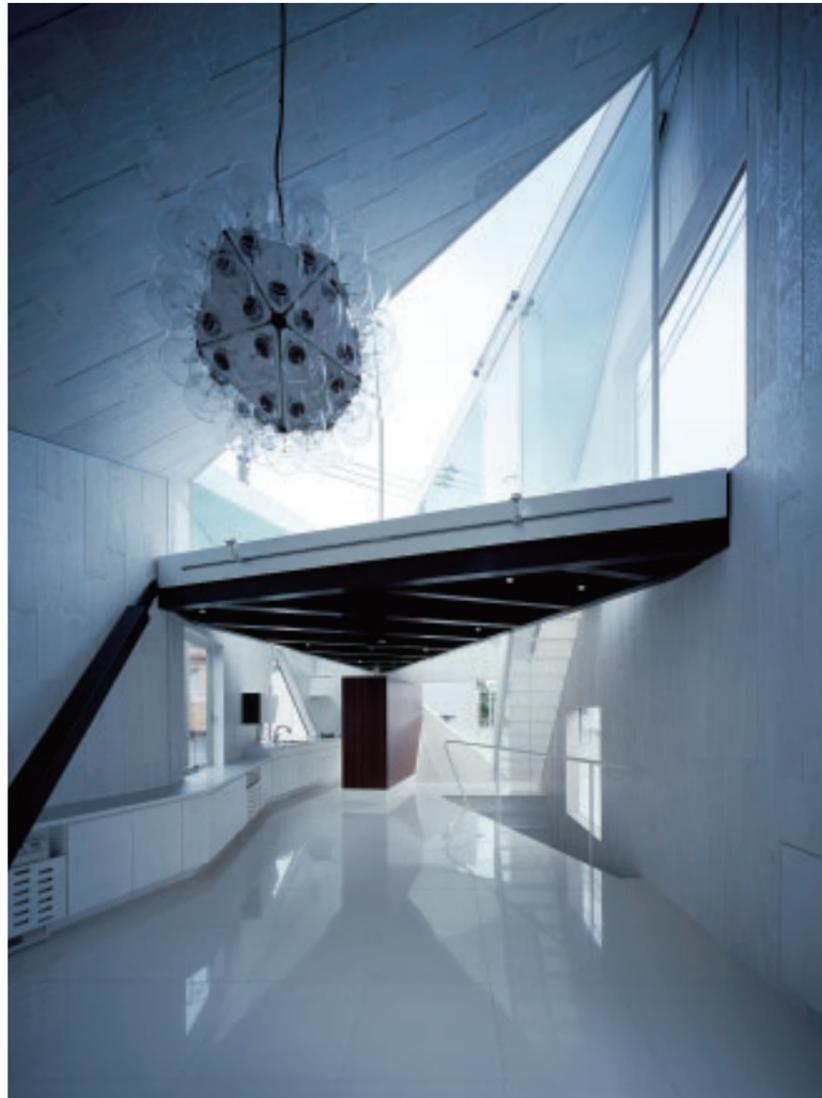
A-A' 断面図 縮尺1/250

この場所ならではの形

福山博之
HIROYUKI FUKUYAMA

A-house

設計：福山博之／福山建築事務所



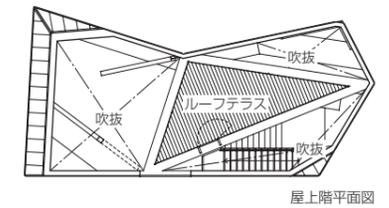
殻に落とし込まれたルーフトラスがリビング・ダイニングに浮かぶ。床仕上げのセラミック磨きタイルへの映り込みにより、空間がより大きく感じられる。左奥がキッチン（写真6点とも：平井広行）



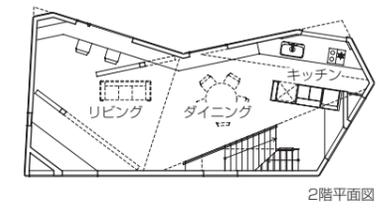
上—リビング 跳ね上がる床の裏は1階のハイサイドライト
下—寝室2 南側で歩道に直面するためハイサイドライトによる採光としている

敷地は世田谷区に位置し、南東と南西が道路に面する不整形地である。北側隣家が敷地境界に接する状況も手伝って窮屈な印象は否めない。幸い南西側の道路は幅の割に交通量が少ないので、建物をこの道路にめいっぱい寄せ、空地を北側に設けることで隣家と離れる配置がまず考えられた。建主は敷地を有効に使い、できるだけ大きな内部空間を確保することを希望したが、北側を空ける配置は、高度斜線下のボリュームを大きくするためにも最良であった。空地は道路側に駐車場を設け、奥へと幅を狭める平面形が有効である。建蔽率最大をキープしながら屋根から足元にむけてボリュームをカットし、地表面を広げ駐車スペースを確保する。狭まった奥もまた同様の方法で勝手口のスペースをつくる。結果、空地側の外壁は平・断面双方向に折れた斜めの面で構成されることになるが、この形状を木造による殻の剛性を高める上でも有効に働かせている。一方、道路側には、高度斜線なりの屋根と、落とし込まれたテラスの反対側への水勾配となるように折られた屋根により、シンプルな家型が現れた。これらの面の集合として、全体は見る方向により漸次的に姿を変える動的な形態となったが、これは敷地とそこに定められた制度から導かれた「この場所ならではの形」である。外部はその形

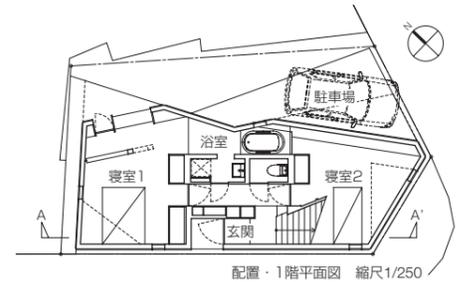
が直接的に表現されるように努めた。雨樋や軒を廃し、開口部のだきを小さくするなど、建築的分節を省略するために、ガルバリウム鋼板による止水面上にアルミ発泡樹脂複合板を浮かせて張っている。この素材は面によって色を分けて張られているが、ボリュームを実際より小さく見せ、周囲に馴染ませる意図によるものである。内部は、多面体の形態を素直に空間に反映させるシンプルな平面計画とした上で、木造軸組みの露出、粗い合板によるランダムな凹凸がついた殻の内張り等、外部の抽象的な表現と相反する親密さを漂わせている。2階LDKは、映り込みにより空間をより広がりのあるものに知覚させるよう、セラミック磨きタイルの床面とした。この床は端部で跳ね上がり、南側で歩道に直面する1階寝室のハイサイドライトを形成するが、寝室側に施された壁紙の白地に黒の花柄が外部にも表出し、この場所と内部の関わりを暗示する。これらのそれぞれ相反するような操作は、多様な方法の共存が、特定の概念を強化するような徹底と違った経験をもたらすことを目論んだものであるとともに、そもそもの建築的成り立ちが場所と制度に委ねられたことへの反動でもあるのかもしれない。*



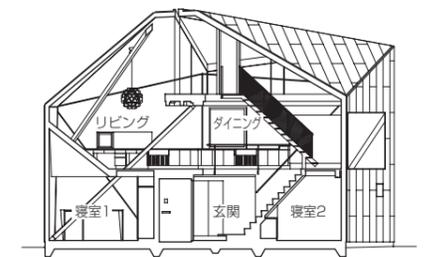
屋上階平面図



2階平面図



配置・1階平面図 縮尺1/250



A-A' 断面図 縮尺1/250



左—南側全景 見る方向により姿を変える外観。面ごとに色分け、スケールを周囲に馴染ませている
右—北側外観 迫り出したボリュームの下が駐車場。平・断面双方向に折れた面が木造の剛性を高めている



寝室2から玄関方向を見る。北側の折れた壁が浴室越しに連続する

ふくやま・ひろゆき—建築家／1963年生まれ。1988年、明治大学工学部建築学科卒業。1988～98年、磯崎新アトリエ勤務。1998年、福山建築事務所設立。現在、明治大学・工学院大学非常勤講師。
主な作品：PANDA (1999)、M-house (2001)、Y-bldg (2005) など。

■建築概要

名称：A-house
所在地：東京都世田谷区
家族構成：夫婦＋子供1人
敷地面積：83.57m²
建築面積：54.72m²
延床面積：106.81m²
規模：地上2階
構造：木造
工期：2008.1～2008.6
設計：福山博之／福山建築事務所
施工：横溝工務店

●INAX使用商品●床タイル：CIM-600/PON、ハンドシャワー付シングルレバー混合水栓：SF-G451SXほか